

埼玉の食産業はもっと目立って！

ぶぎん地域経済研究所 専務取締役／チーフエコノミスト 大西 浩一郎

明治初期にニューヨークに輸出された「狭山茶」、宇宙飛行士の若田光一さんがスペースシャトルで食した「草加せんべい」、深谷出身・渋沢栄一翁の新一万円札とともに脚光を浴びる「深谷ねぎ」。このあたりは全国津々浦々に知れ渡った埼玉の名産品と言えます。とはいえ、こうした甲子園の常連クラスの物産がわずか3つというのはどうでしょうか。以下にお示しする埼玉の食産業の実力を考えれば、控え目すぎる、いわゆる地域ブランド品はもう少し多くてしかるべきだ、と考えるのは筆者だけではないはずです。

埼玉県は押しも押されぬ「食の王国」です。経済産業省・2023年経済構造実態調査で食料品の製造品出荷額をみると、わが埼玉は2.1兆円で、これは北海道に次ぐ全国2位。3位以下を引き離し、全国の6.7%という大きなシェアを握っています。

埼玉県の鉱工業生産指数を算出する際の付加価値額ウエイトもみてみましょう。当県を代表する鉱工業の業種は、輸送機械、化学、食料品の3つであるといわれます。2015年基準ではこのうち化学のウエイトがトップでしたが、最新の2020年基準では、食料品が逆転してナンバー1となりました（食料品20.4%、化学16.0%、輸送機械10.4%）。その中でも、「チョコレート類」、「めん類」、「アイスクリーム」のウエイトは3%台と群を抜いており、いささかおかしな比較

ですが、「乗用車」に匹敵する大きさです。

こうした中、出荷額が全国第1位という食料品も多く、「統計からみた埼玉県のすがた2024年」（埼玉県）によれば、上記の品目以外に「惣菜」、「すし、弁当、おにぎり」などの中食向け製品が目立つほか、意外なところでは「精米」がナンバー1です。一般に「米どころ」といえば新潟県、秋田県あたりですが、「白米どころ」となると話は違ってきて、わが埼玉がキングなのです。また、これらは製造品という括りでのお話ですが、農産物ですとやはり「ねぎ」、そして「ほうれんそう」と「さといも」が全国1位です。

隠れた食の王国、埼玉。大消費地に近く、交通網が整い、工場向けの土地が広がっているという、絶妙な条件からもたらされた現在の隆盛なのでしょう。基本的には「作れば売れる」わけですから、ことさら前に出る必要はないという心情もあったことと思います。しかし、確固たる地域ブランドとなれば、少々高い値段でも国内消費者は喜んで買うでしょうし、訪日外国人を惹きつけたり、またその先には、海外への輸出を伸ばしたりといった展望も拓けます。県北のある若き養豚家は、「日本全国、〇〇牛はいくらでもあるが、〇〇豚はまだ少ない」として、ブランド化のチャンスについて語っていました。

美味しいものを食べると、人は自然と笑顔になります。それは、「幸せホルモン」と呼ばれるドーパミンという神経伝達物質が脳から放出されるから、という科学的な理由もあります。食品の製造は、厳格な衛生管理が求められるなど格別の難しさを伴うものの、人々に幸せを送り届ける尊い産業であるということが出来ますし、事業そのものがSDGsの推進であるといっても過言ではありません（「飢餓をゼロに」、「すべての人に健康と福祉を」）。官民挙げて、埼玉の食産業のブランド化を推し進め、名実ともに当県の基幹産業にふさわしいプレゼンスを築き上げていきたいものです。もっと目立っていきましょう！

食料品製造品出荷額（2022年）・上位10道府県

順位	都道府県	出荷額（億円）	全国シェア（%）
1	北海道	23,854	7.5
2	埼玉県	21,139	6.7
3	愛知県	18,887	6.0
4	兵庫県	18,632	5.9
5	千葉県	17,683	5.6
6	神奈川県	16,390	5.2
7	茨城県	15,864	5.0
8	静岡県	14,744	4.6
9	大阪府	13,909	4.4
10	福岡県	10,447	3.3

（資料）経済産業省・2023年経済構造実態調査